

## 第 42 年度（2026 年度）ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

「ソフトウェアで世の中を幸せに！」

世の中に出回っている製品は信頼性、搭載機能といった当たり前品質はもちろん、使い勝手を始めとする魅力的品質が製品の価値を決めているのではないのでしょうか。そして、ソフトウェアは製品の価値創出の鍵を握っていると云っても過言ではありません。

基礎コースは、当研究会の入門コースとしてソフトウェアの設計、品質、マネジメントなどの様々な立場の人たち、新人からベテランまでの幅広い層の人たちが一緒になって、主に経験を通して習得する基本的なテーマ（ソフトウェアに関する品質管理の概論や品質マネジメントシステムなどの仕組み・管理やテスト、レビューなどの技術的支援）から、品質管理に欠かせないテーマ（メトリクス）、本来最初に学んでおくべきテーマ（要求分析、プロジェクトマネジメント）や、今学ぶべきテーマ（アジャイル、AI）まで、あらゆるテーマで各社の状況・工夫・悩みを共有・議論しながら、品質のABCを学びます。

一方的な受け身の学びではなく、共通の思いを達成できるように意見を出し合い、「こんなことをやっているのか！」「こんな考え方もあるのか！」と共感し合いながら即効性のあるヒントを見つけていきます。そして、職場に戻って実践することで、ソフトウェアの品質向上を目指します。

主査には全体最適の品質改善として製品品質とプロセスの改善を実践している岩井、ソフトウェアの品質向上に向け組織のプロセス改善に取り組んできた土屋氏。アドバイザーとして長年本研究会で指導され、企業でも数々の実績を上げてきた飯泉氏。この3名が皆さんの職場での実践にむけたアドバイスや現場での困りごとの解決のヒントを送るなど、全力でサポートします。

設計、品質、マネジメントに関わる人たちが一緒に取り組めるチームを築き、良いソフトウェアを作り、設計者とお客様が満足でき、社会に貢献できる『3方良し！』のソフトウェア開発で世の中を幸せにしましょう！

なお、基礎コースは翌年以降の研究・演習コースへの参加を支援するカリキュラムとなっております。